

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：盛岡となん支援学校

項目		2011/3/11（金）				2011/3/12（土）	2011/3/13（日）	2011/3/14（月）	2011/3/17（木）	
防災計画項目	3.11 実態	地震発生前	発生時	地震発生後			翌日	翌々日	3日目	6日目
				発災後～1時間	1時間～3時間	3時間～1日				
一般状況			震度5弱	市内は、全城停電。ガソリン入手困難。				停電は午後復旧 依然としてガソリン 入手困難		
状況・ニーズ	校内災害対策本部 及び人的動き （職員、児童・生徒 関係）	午前授業	午前授業のため、 児童・生徒は 在校せず。 寄宿舎に6 名在舎。	・非常放送が使用できなかったため、校長、副 校長、事務長が校舎内外を巡回し、現状を確認。 ・寄宿舎の避難のため教職員が避難応援。生徒 1名に対し職員3名で避難完了一食堂で保護者の 迎えを待つ。 ・保護者への寮生の引き渡し及び、20:45に完了。 ・13日（日）に管理職、学部長等が集合する こととして、21:00過ぎに職員も全員退校 する。				・校長、副校長、 事務長、約10名の 教職員で、校舎の 再点検、児童生徒 の安否確認 ・3月14日、15日 の休校決定とその 連絡 ・NHK・IBC の連絡版も活用	・職員は通常出勤一時職員会議 16日 から授業再開、卒業式は予定どおり行う こと→学校教育室と協議 ・児童生徒は休業日措置 ・児童生徒の状況再確認 ・職員及び家族の状況確認 ・校舎内外を全職員で再点検、ボイラー は業者点検終了、電気、水道も確認	修了式 卒業式 寄宿舎 退舎生を送る 会
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。 （第3章 第25節）	施設・設備関係		・停電 ・断水 ・電話不通	【施設等の被害状況確認】 ①職員玄関前側溝隆起、倉庫引き戸ガラス破損、筋違い破損、燃料ポンプから少量の燃料漏れ 職員室窓ガラスにひび割れ ②体育館天井の板が数か所ずれ、入り口エキスパンション破損、渡り廊下天井石膏ボードにヒビ				・電気 ・水道 ・電話 復旧	・被害状況のとりまとめ、報告 ・被害施設等の応急措置を開始	
2 避難所の設置に係る協力に関すること。 （第3章 第4、25節）			該当なし							
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。 （第3章 第25節）										
4 教職員の非常配置に関すること。 （第3章 第25節）				・寄宿舎への応援（児童生徒の避難誘導等） ・療育センターへの応援（夕食介助～20：00） ・みちのく療育園に職員が様子確認に出向いた。 ・学部ごとに担任が、各児童生徒宅に連絡を行った。			・校長指示により、 家庭に心配がある職員は、職場の安全確保の人員を確保できることを確認し、帰宅した。			
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。 （第3章 第25節）				○情報窓口の一本化（本部：校長室にすべての情報を集積）⇒行動指示						
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点		長期停電時に対する対応が想定外であった。							
	事務室の対応		避難通路の確認	1 校舎内を巡回し、防火扉の復旧、大まかな被害状況を確認 2 被害箇所の写真撮影、灯油・重油の残量調査 3 ラジオによる地震情報収集				・被害状況の確認	・被害状況のとりまとめ、報告	
	学校行事及び特殊事情等									修了式において、校長から震災時の対応について児童生徒へ説明。また、今後の日程を確認した。
問題点・感想等		・飲料水、食料は備蓄していないので確保に苦労した。 ・停電時の非常用発電機の配備が望まれる。 ・震災時の状況（夜間、停電、交通手段等）に応じた対応策をケースごとに決めておく必要がある。								

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：20 盛岡青松支援学校

項目		3月11日					3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日以降
		地震発生前	発生時	地震発生後			翌日	翌々日			
防災計画項目	3.11 実態			発災後～1時間	1時間～3時間	3時間～1日					
一般状況			震度5強	・ライフライン遮断			・流通停止によるガソリン等物資の不足				
状況・ニーズ		・高等部生徒1名補習授業中。		①揺れが取まった時点で校内放送で注意を呼びかけ ②ラジオによる情報収集。	・校舎内外を全職員で点検	・交通渋滞により、 外勤者の帰校17時		重油配達中止			3/22バス車検 3/28遅れていた重油入荷 3/29灯油入荷
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。 (第3章 第25節)						・被害状況を確認：被害なし。（食器等消耗品数点破損）					
2 避難所の設置に係る協力に関すること。 (第3章 第4、25節)						隣接の学園より体育館に避難したい旨要請あり⇒学園の職員含め受け入れ					
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。 (第3章 第25節)				・児童生徒の安否確認							
4 教職員の非常配置に関すること。 (第3章 第25節)						・主任級職員以外4時下校許可 ・玄関へ職員へ伝達事項掲示 ・体育館に学園生等受け入れのため、校長宿泊	・体育館避難者が断水に気付かず、トイレの水栓開放のまま帰園。	・副校長長が出勤し、流水止め			
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。 (第3章 第25節)							・3月15日卒業式挙行を、IBCラジオ及びメール等により保護者等へ連絡。				
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点										
	事務室の対応			①揺れが取まったのを確認後、被害状況確認。②日没後の待機に備えて、石油ストーブや懐中電灯等を準備。							
	学校行事及び特殊事情等	児童、生徒午前授業							・職員会議 ・卒業式準備	・卒業式	
問題点・感想等											

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：21 盛岡みたけ支援学校

項目		3月11日					3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	3月16日	3月17日
防災計画項目	3.11 実態	地震発生前	発生時	地震発生後			翌日	翌々日				
				発災後～1時間	1時間～3時間	3時間～1日						
一般状況			震度5強	・大津波警報・ライフライン遮断			・流通停止によるガソリン等物資の不足					
状況・ニーズ		・小学部児童14：25下校。通学バス運行中。		①余震が続き、建物の安全が確認できないことから、屋外に避難誘導。②ラジオによる情報収集。	①運行中のスクールバスが戻り、市内の信号が止まり渋滞が発生している旨報告を受けた。②保護者の迎えを待つ間、本校児童生徒は通学バス内で待機し、高等部は駐輪場をブルーシートで囲い、石油ストーブにより暖房を確保し待機。19：30頃最終生徒下校。							
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。 （第3章 第25節）						・被害状況を確認。業者に見積もりを依頼。【本校】①校舎：壁に亀裂。②受水槽：破損。【高等部】①体育館：ステージ天上及び入口床破損。②南校舎：エキスパンション破損等。【奥中山校】被害なし。						
2 避難所の設置に係る協力に関すること。 （第3章 第4、25節）												
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。 （第3章 第25節）				・児童生徒の安否確認								
4 教職員の非常配置に関すること。 （第3章 第25節）				①校長室に対策本部を設置し、情報収集及び職員への伝達指示を行う。②教職員の安否確認を実施。		・三役を残し、21：00職員解散。	・三役及び各部主任のみ出勤。					
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。 （第3章 第25節）							・3月14日休校する旨、IBCラジオ及びメール等により保護者あて連絡。					
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点											
	事務室の対応			①揺れが収まったのを確認後、被害状況確認。②日没後の待機に備えて、石油ストーブや懐中電灯等を準備。			・給食や通学バス対応について、関連業者確認。					
	学校行事及び特殊事情等								・本校休校	①通学バス運行開始 ②簡易給食実施	・奥中山校卒業式	・本校卒業式
問題点・感想等		①非常災害用備蓄について、今後検討すべき。②普段からライフラインの全てが遮断された場合を想定しての対応について、検討が必要。③特にも、通信手段遮断による連絡方法（伝言ダイヤルの活用等）を検討すべき。※ 新年度のスタート（入学式等）が予定より1週間程度遅れ。										

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：盛岡峰南高等支援学校

項目		3月11日							3月12日	3月13日⇒	3月18日	4月7日	4月12日	
防災計画項目	3.11 実態	地震発生前	発生時	地震発生後					翌日	翌々日				
				発災後～1時間	1時間～3時間			3時間～1日						
一般状況	卒業式	卒業を祝う会、終了時	携帯の緊急地震速報あり	強い揺れの後、停電。事務室の総合防災盤が発報。断水した。				夜になった。	土曜日も停電	日曜日も停電。一部復旧がはじまる。	水道復旧	電話・電気復旧	深夜の強い余震で再び停電	始業式
状況・ニーズ	校内災害対策本部及び人的動き（職員、児童・生徒関係）	1、2年生は下校後であった。		校舎、寄宿舎等の見回り報告	すでに帰宅した1、2年生の安否確認をする。	同左		一応、20時まで生徒に関する情報を収集したのち、校舎を施設し翌朝から再開とした。	依然として安否確認がとれない生徒が22人のままであった。	同左（手話まりでIBCラジオへのメールを活用し連絡を待った。）	その後、順次安否の情報が入って無事が確認できた。		停電、断水	学校を事実上、再開した。
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。（第3章 第25節）	施設・設備関係			教職員が事務室前に集合する。	施設、設備の目視による緊急点検の集約。約1時間を要した。	施設、設備には被害は認められなかったが本庁への連絡は途絶えたままであった。		副校長が県教委に出向いて報告した。			通信が回復し諸報告をした。	燃料に関する調査報告		
2 避難所の設置に係る協力に関すること。（第3章 第4、25節）						盛岡市から特に避難所使用の要請はなかった。								
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。（第3章 第25節）					学級担任ほか寄宿舎担当全員で生徒の状況確認をする。	同左		副校長が県教委に出向いて報告した。						
4 教職員の非常配置に関すること。（第3章 第25節）			勤務時間中	全員で対応した。				停電によりガソリンスタンドで給油不能。信号機のない交差点で渋滞。	翌日も停電で給油不能で登校困難。信号機のない交差点で渋滞。	同左	同左			
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。（第3章 第25節）										3月中の終業式の実施が可能か検討する。	燃料も食材もライフライン途絶		被災した生徒のため休日開会する。	
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点		電話がつながりにくくなることは想定できたが、停電は考えていなかった。停電で様々なインフラが途絶えることを予想すべきだろう。											
	事務室の対応		地震対応の中心	生徒の安否確認の本部となる。				同左	同左	同左	公衆電話活用（ピンク）	今災害に関するサービスの検討		通常業務
	学校行事及び特殊事情等	午前中、卒業式	午後、寄宿舎の食堂で卒業を祝う会	全県下から生徒が集まる職業科の高等部専門の支援学校である。発災後、卒業生と保護者は帰宅の途についた。1、2年生は卒業式後、帰省中で一関方面へのJR列車、沿岸へのバスの情報収集が進まず安否確認に手間取った。										終業式、始業式
問題点・感想等		電話不通、停電、強い余震、安否確認に手間取る、地元ラジオ局への伝言依頼、他局への依頼も有効だったのではと反省。安否不明の職員の存在、在校生と卒業生の被災状況の把握、PTA見舞金の該当者、断水、学校・寄宿舎再開への情報収集、食材調達の見込み、燃料類調達の見込み、トイレトペーパー等の消耗品の確保が問題であった。												

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：花巻北高等学校

項目		3月11日							3月12日	3月13日⇒	4月18日			
		地震発生前	発生時	地震発生後										
防災計画項目	3.11 実態			発災後～1時間		1時間～3時間		3時間～1日						
一般状況			震度5弱											
状況・ニーズ		校内災害対策本部及び人的動き（職員、児童・生徒関係）	多くは下校していたが吹奏楽部等は部活を行っていた	揺れが収まるまでその場にいた。	職員生徒共全員中庭に避難。停電となる。	生徒を下校させる。	校長指示により職員による校舎内の被害状況確認。	翌日の件について職員に指示する。	電気が復旧するまで学校は休みとする。管理職と、来れる職員は12日来校して点検をする事とする。	勤務時間終了前であるが職員を退勤させる。	校舎内の点検をする。	校舎内の見回りをする。	3月16日まで生徒休校。	3月17日より通常の活動再開。
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。（第3章 第25節）		施設・設備関係			停電。電話はしばらく使えた。水道も高架水槽の水があるうち使えた。	電話も通じなくなる。							3月14日被害箇所の確認を行う。	
2 避難所の設置に係る協力に関すること。（第3章 第4、25節）							最後尾							
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。（第3章 第25節）														
4 教職員の非常配置に関すること。（第3章 第25節）														
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。（第3章 第25節）														
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点		非常時は避難指示等を放送で流す事となっていたが、停電により使用不可であった。											
	事務室の対応		玄関を開放し非難経路を確保。	暖房の集中制御スイッチを全部止めた。事務長は校長・副校長と対応協議。										
	学校行事及び特殊事情等			電車の不通により帰れなくなった生徒を泊めてくれた家があったが、問い合わせがきても返事ができない状況もあったので、学校に連絡をしてくれるとありがたかった。（紙のメモでも）										
問題点・感想等		懐中電灯・ハンドマイク・発電機を常備する必要があると思った。												

[illegible]

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：花巻農業高等学校

項目		3月11日		3月11日～3月12日	3月12日	3月13日	3月14日	4月13日
		地震発生前	発生時	地震発生後				
防災計画項目	3.11 実態			発災後～1時間	1時間～3時間	3時間～1日		
一般状況			震度6弱			停電		ガソリン不足により遠距離通勤者出勤困難。
状況・ニーズ	校内災害対策本部及び人的動き（職員、児童・生徒関係）	放課後、クラブ活動中の生徒が残っていた。	副校長の指示により校舎外への避難を呼びかけた。	・校内にいた職員・生徒を職員玄関前に集合させ点呼等を実施。 ・保護者と連絡がとれた生徒の下校を指示。	生徒が保護者と連絡がついて帰宅できるまで職員と一緒に残っていた。	校舎及び農場の被害状況の確認、清掃等実施。	3階エキスパンション付近立入禁止及び第二体育館立ち入り禁止とした。	
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。（第3章 第25節）	施設・設備関係			停電 断水 電話不通		翌日、施設の被害状況を確認。		教育企画室に被害状況を報告。
2 避難所の設置に係る協力に関すること。（第3章 第4、25節）								
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。（第3章 第25節）		非常連絡網は整備済。	校内にいる生徒の安全確認。		保護者と連絡がとれた生徒を帰宅させる。一部生徒は職員が自宅へ送り届けた。	生徒は休みとした。	担任による生徒の安全確認の実施。	
4 教職員の非常配置に関すること。（第3章 第25節）						・生徒が全員帰宅するまで数名の職員が待機。 ・翌日、花巻市内の職員が集まり施設の被害状況を確認。		
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。（第3章 第25節）								
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点							
	事務室の対応		玄関を開放し避難経路を確保した。	余震の危険があるため、最小限の片づけのみを実施。	翌日、施設の被害状況を確認。		教育企画室に被害状況を報告。	
	学校行事及び特殊事情等							入学式
問題点・感想等		・携帯電話がつながらなく連絡に支障があった。 ・灯油等の不足が予想されたので職員室、事務室、校長室等をダルマストープのみ切り替えたことが良かった。						

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：花北青雲高等学校

項目		3月11日（金）						3月12日	3月13日	4月15日		
		地震発生前	発生時	地震発生後								
防災計画項目	3.11 実態			発災後～1時間		1時間～3時間		3時間～1日				
一般状況			震度6弱	停電によりJR及び信号機が不通								
状況・ニーズ	校内災害対策本部及び人的動き （職員、児童・生徒関係）	1・2年生が校内及びグラウンドでクラブ活動中。	校長指示により「全員部活を止め、職員玄関前集合するよう」緊急避難放送。 （生徒指導部長）	クラブ活動中の生徒（1・2年生約200人）及び全教職員が正面玄関前駐車場付近で避難待機。	災害対策本部を校長室に設置し、迎えに来た保護者へ職員玄関前で引き渡す。	保護者の迎えを待つ生徒（約10人）を小会議室に移動させる。	生徒、教職員の飲料水、食料確保のため職員2名が近くのコンビニへ行き買出しを行う。 （通常15分のところ90分かかる）		3月11日19:00過ぎに最後の生徒の保護者が迎えに来たので引渡し、教職員帰宅。 （信号機不通）	生徒は部活中止、自宅待機とする。	生徒は部活中止、自宅待機とする。	
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。 （第3章 第25節）	施設・設備関係		停電、非常発電装置作動。	・停電により、ガス・水道供給不可 ・電話不通。 （携帯とも）		灯油ストーブ1台を小会議室へ設置。	各教室等の管理責任者が校内点検を実施。 （被害状況の把握：副校長取りまとめ）			副校長が出動し、改めて施設等の被害調査。		
2 避難所の設置に係る協力に関すること。 （第3章 第4、25節）										設置要請等特になし。		
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。 （第3章 第25節）												
4 教職員の非常配置に関すること。 （第3章 第25節）				校長指示により児童生徒等がいる教職員を帰宅させ、残りの教職員が非常配置。								
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。 （第3章 第25節）						情報窓口の一本化。	3/12、13は部活動中止とし顧問等を通じて連絡。					
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点		・地域防災計画に基づく連絡等は通信網の遮断により全く機能しなかった。									
	事務室の対応		職員玄関を開放し避難経路を確保。	・事務長を本部付けとし、校長・副校長等と対応協議。 ・校内にある乾電池、懐中電灯を事務室に集める。 ・携帯電話テレビ、自家用車載テレビ及び校内にある携帯ラジオで情報収集。							入学式	
	学校行事及び特殊事情等											
問題点・感想等		・飲料水、食料は備蓄してないので確保に苦労した。・停電時の非常用発電機の配備を望む。 ・携帯電話が全く通じず、本庁、地方支部等への連絡手段がない状態。・今回は年度末休業中であったため、自宅待機の指示のみで対応できたが、通常の出校期間であれば、本庁との連絡ができないまま学校での様々な判断が求められたと思うので、その対応について決めておく必要がある。・震災が起こった場合には職場への招集となっているが、夜間で停電など、状況がわからない時に対応ができるかが不透明。										

震災発生時とその後の対応（反省含む）

学校名：大迫高等学校

項目		3月11日											3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	4月14日
		地震発生前	発生時	地震発生後													
防災計画項目	3.11 実態			発災後～1時間		1時間～3時間			3時間～1日								
一般状況			震度 6 弱	全域停電													
状況・ニーズ	校内災害対策本部及び人的動き (職員、児童・生徒関係)	午前授業のため、生徒は部活動中で、職員は出張、年次休暇者以外、10名ほど校舎内にいた。	避難放送はせず、各自校舎外へ非難した。	ラジカセや携帯のワンセグにより情報収集を開始した。		校長、事務職員、用務員が校内施設の被害状況を点検した。ガラス1枚破損、エキスパンション等の破損、体育館壁の一部剥離落下があった。	出張者等を含む教職員全員の安否確認を行い、全員無事であることを確認した。	校長、事務長以外の職員は17時で退庁した。	被害状況確認のうえ、校長、事務長及び警備員は19時に退庁した。	出勤しなかった。	出勤しなかった。	3月14日は事務職員等4名が1日勤務、他の職員は2時間勤務。(停電中)	3月15日・16日は、校長、事務職員等3～4名勤務、他の職員は通勤困難で特別休暇。				
1 県立学校施設・設備の被害調査及び応急対策に関すること。 (第3章 第25節)	施設・設備関係		地震中に停電となり、電話も不通となった。	断水はしなかったが、断水へ備えるため容器に水を貯めた。ガスはプロパンなので使用可能であった。	FFは停電で使用不可となったので、ダルマストーブを校長室・事務室に設置した。	水道の元栓を全部閉じた。退庁前に全てのFFのコンセントを抜いた。	割れた窓ガラスの応急措置を行った。					3月14日17時に電気が復旧となった。					
2 避難所の設置に係る協力に関すること。 (第3章 第4、25節)				設置要請なし。													
3 被災児童生徒の被害調査及び応急対策に関すること。 (第3章 第25節)			学検後で、午前授業のため校舎内に生徒はほとんどいなかった。	野球部員がグラウンド、吹奏楽部員が2名音楽室にいた。				町外の生徒1名を教員が送り届けた。					3月15日生徒の安否確認をし、全員無事を確認した。				
4 教職員の非常配置に関すること。 (第3章 第25節)																	
5 被災後の学校運営及び指導に関すること。 (第3章 第25節)																	
	災害対応マニュアルとの相違点・問題点		特になし。														
	事務室の対応			校舎内の破損状況等確認を行った。ガラスが破損したので、応急措置を行った。体育館の壁が剥離し、落下のおそれがあるので立入禁止とした。													
	学校行事及び特殊事情等			3月11日は花巻支部三役会が午後から開催予定であったが、中止となった。事務長は三役会の準備等で自宅に帰っていたが、午後4時に学校に戻った。												入学式	
問題点・感想等		生徒、職員が全員無事で、施設もほとんど被害がなかったことは幸いであった。また、大迫地域も被害が少ないため、避難者もなく待機する必要もなかった。															

[illegible]